

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000072		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム 千花		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字芦北2592-1		
自己評価作成日	令和4年10月27日	評価結果市町村受理日	令和5年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年11月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9年目となった千花です。新型コロナが発生し令和2年の豪雨災害にて被災してから以前と同じような生活を送る事が難しくなりました。面会は地域の感染状況を見て、窓越し又はマスク着用にて玄関での面会をお願いしています。オンラインの面会も可能です。アルコール消毒・定期的な職員の抗原検査にて感染対策を行っています。運動不足にならないようにラジオ体操・リズム体操・脳の活性化を図る計算問題・読問題・童謡の歌唱など日替わりでレクリエーションに取り組んでいます。天気の良い日には裏庭でのお茶会を行っています。20代～60代の個性溢れるスタッフがそれぞれの得意料理や、スタッフ同士で調理方法等の指導を行いながら手料理を提供しています。施設内でも季節を感じて頂けるように壁飾りを工夫して利用者様と一緒に作成しています。誕生日会や敬老会・運動会を行い行事を楽しんで頂いています。ホーム内での様子を写真に撮りタブレットからご家族様へ送信しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年の豪雨災害やいまだ終息の見えないコロナ感染症により以前のような取組は難しい中であるが、掲げた「幸せ」「安心」「安楽」を全職員で共有し、広報誌やタブレット、スマホラインなどを活用し、家族の安心に繋がる情報をなるべくタイムリーに発信できるよう努めている。また、同法人の他のグループホームとの連携し、より良いサービスの為に切磋琢磨していることが聞き取りからも十分伝わってきた。職員の明るいチームワークで生き生きと業務にあたる姿は、家族の安心や信頼に繋がっており、退居後の家族が来訪や電話で入居時のことに感謝しながら近況を伝えられている。開設時から継続されている畑での野菜作りや職員による調理は、入居者に音や匂いからその日の料理についての会話に繋がるなど、家庭の中の一場面のようなものである。今後も温もりとやすらぎ、アットホームな生活をホーム全体で支援されることを期待したい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の理念を踏まえ千花独自の「思い」を掲げ職員全員で共有し実践に繋げている。	法人理念をもとにホーム独自でケアの規範となる「思い」をリビングに掲示している。併せて入居者への声掛けが言葉の使い方や思いやりに欠けていなかったかなど、職員同士が気づきを言い合える雰囲気づくりに努力している。月のカンファレンスで振り返り、新たな課題に取り組みながらホーム運営に邁進している。	本年度はホームの情報発信に力を入れており、理念をもう一步家族や入居者にわかりやすく伝える努力をしている。今後職員自身も個人目標を立てるなど更なるレベルアップにも期待が持たれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は近隣の方への挨拶は常時心掛けています。買い物は近隣で行い、ホーム前の道路掃除も積極的に行っている。	地域に出店した商店で野菜を購入したり、以前から付き合いのある店舗とのやり取りなど、地域との交流を続けている。ホームでは開設時より自主的に前面道路の掃除に関わり、地域の美化活動に貢献している。法人系列のグループホームとは2年前の大水害時に避難先を共にしており、顔見知りの関係となって交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	千花が毎月作成している新聞を区長さんをお願いし、少しでも千花での生活内容を理解して頂けるように地区の皆様へ配布している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年3月から新型コロナウイルスが発生し現在までホーム内での運営推進会議は行っておらず、書面での開催としている。	長期化するコロナ感染症にホームでは、関係者へ資料を手渡すことで書面開催としている。活動報告の中には水害や火災を想定した避難訓練の状況や事故などの報告を行い、資料で意見を求めながらホーム運営に反映させている。	通常開催時には行政をはじめ消防署や地域の代表者、家族が参加しており、直接開催に向けメンバーからの意見や要望が反映されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場・消防署に出向き疑問点等の相談を行っている。日頃から何気ない会話をし、交流を図っている。	町の主要機関を徒歩圏内とするホームは、管理者が必要に応じて行政や消防署に出向き、相談事に応じてもらいながら適切な関係を築いている。コロナ禍により中断していた“グループホーム連絡協議会”が開催されており、前回は大水害を経験したホームが災害当日やその後の復旧に向けた取組を報告し、今回感染症対策について話し合いが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する勉強会を法人の中で実施し職員全員が正しく理解し実践に取り組んでいる。玄関居室等の施錠についても身体拘束であると認識したうえで安全確保の為に施錠を行っている。スピーチロックに関してもお互いが声掛け合って注意している。	法人委員会での全体研修での参加が難しい場合には資料をもとに話し合い、認識を共有するようにしている。また、スピーチロックについて全員が注意し合える環境作りや、入居者の動きを止めることなくその後の言葉かけが重要であると捉えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の「虐待の防止のための指針」が制定されスタッフ全員が熟読し、「虐待のない職場」を目標にかかげて取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度対象者はおられないが、以前学んだ知識や情報は職員間で共有している。町の主催する研修会に参加し、情報を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書の説明、利用料金、重度化や看取りについて、医療連携体制、起こり得るリスクなど詳しく説明している。報酬加算料金改定時には文章を発行し個々に詳しく説明している。経済的不安に対しては個別にて対応相談に乗っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との毎日の会話の中で意見要望不満等聴くようにしている。内容を共有し職員間で話し合い運営に反映させている。家族の面会時には必ず意見や要望を聴くようにしている。要望は職員間で共有し運営に反映している。	入居者の意見や要望は普段の会話から聞き取り、整髪やリビングの席替えの要望などできる事には速やかに応じている。家族からは面会方法の希望や法事への参加など状況を見ながら対応している。現在、面会は建物の造りを活かした窓越し面会や車を横につけて車中からの面会“ドライブスルー方式”も可能としており、家族に安心してもらうよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員で業務検討会を行い意見を出し合い聴くようにしている。また休憩時などに気付いた点は都度話し合えるようにしている。現在、運営会議は書面での開催としており、書類提出時に理事長・訪問主任に意見や要望を伝え運営に反映させている。	ホーム内は職員が意見を出しやすい雰囲気であり、月のカンファレンスばかりでなく普段から気づいた点や業務改善につながる意見を発言している。代表者も入居者の様子を見に訪れ、安心して帰られるようである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の要望や意見を聞き入れ雇用主に伝え、明確な回答をもらっている。仕事への意欲向上の為に努力を頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在はコロナ禍で外部研修参加は難しい状況である。法人内の研修会は書面で行っているが、全員が資料に目を通し統一した知識を得ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会熊本支部総会にはオンラインでの出席を行った。水俣・芦北ブロック会は開催予定であったが、他の施設でコロナウイルス罹患者が出たため、延期となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリーや情報提供書にて事前に本人の思いや不安を全職員が共有し傾聴するようにしている。要望等にも耳を傾けコミュニケーションを取りながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話に世間話などを交え、ゆっくりと話を聞くようにしている。特に不安な事、要望等は時間をかけ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネからの情報を引き継ぎ、本人と家族の要望を理解し全職員で情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じ簡単な家事を一緒に行っている。また出来る事はして頂き出来ないことを支援させてもらっている。常に笑顔で接するよう心がけ穏やかに生活して頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに本人の状態を報告している。殆どの家族とラインで繋がっており、ちょっとした連絡や写真を送っている。利用者や家族との関わりを多く持ち良い関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	新型コロナウイルスの流行に伴い、まだ面会に制限をかけている状態である。手紙を書ける方には書いていただき、職員が投函している。	外出が難しい中でも室内活動の充実を図り、馴染みの体操や歌が日課となっている。家族への手紙や絵を描く方、差し入れの柿を干し柿にしたり、裏の菜園で野菜作りを楽しまれるなど、これまでの趣味や特技が生活の中で活かせる場を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、気の合う利用者同士で仲良く生活出来るよう支援している。交流が難しい利用者には職員が間に入りコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看護サマリーや情報提供書にて状態を詳しく伝えるようにしている。町で家族を見かけた時には声をかけ、必要な時には相談に応じ支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に本人に希望を聞いたり、日常の会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。その思いを職員間で共有し話し合いケアに活かしている。時には居室でゆっくり会話する事もある。	入居者の中には自身の言葉ではっきりと意思表示をされる方もおられる。「家に帰って片付けをしたい」など自宅を心配される方や、職員を家族とと思っている方が「かーちゃんが居るけん安心」とつぶやかれるなど、ホームでの暮らしぶりがうかがえる。利用料は家族が直接持参されており、職員は入居者の近況を伝えながら、要望を収集するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から話を聞いたり前ケアマネからの情報提供書・介護サマリー等にて経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックにて毎日の健康状態は把握している。1日を自由に過ごしてもらっているが、支援が必要な方には職員が課題を提供し見守っている。発言内容や表情の変化は小さな事でも情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞きカンファレンスを開催し介護計画を立てている。各担当者にアセスメントを記入してもらい意見を反映しながら、必ず見直しをするようにしている。	入居時の基本情報やホームでの様子から初回プランを立案している。職員を担当制としており、アセスメントの作成や、毎月のモニタリングに関わり、計画作成担当者が入居者・家族の意向を反映し、現状に即した内容としている。大水害を経験しながらもいつも笑顔で他者の喜ぶ顔を見るのが好きな入居者など、以前と変わらぬ生活が出来ていることに職員の介護力が生かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に介護記録に記入している。いつもと違う行動や発言等があった時などは詳しく記入し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ柔軟に対応している。母体が医院である為医療との連携にて病気の早期発見に努め支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らしていけるよう運営推進会議には区長・民生委員・消防署員・役場の方々に参加してもらい意見・情報交換を行っている。現在はコロナ禍にあつて書面での開催であるが、配布時に情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医院がかかりつけ医である。利用者の状態は常に医師に報告または訪問看護に相談している。また、状態に応じ専門医の受診も行っている。	本人・家族の同意のもと全員が母体医療機関をかかりつけ医とし、定期や必要に応じ受診に出ている。家族には受診結果や健康状態などを伝え、相談や質問を受けている。法人の訪問看護支援を月2回受けており、相談に応じてもらっている。専門医受診時は主治医より紹介状を受け、家族に同行を依頼したり職員のみで受診に出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、異常の早期発見に努めている。少しの変化でも医院・訪看に報告し指示を得ている。必要時は受診の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体がかかりつけ医である為、常に状態報告を行っている。入院時は介護サマリーにて情報を提供している。他の専門病院に入院された場合も相談員と情報交換し、退院の日程など話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に必ず家族に希望を尋ねている。状態に変化が生じた場合には医師と意向確認をし対応している。また入院が必要な場合は必ず家族に連絡をとり最善策が取れるよう心がけている。	入居時にホームでの看取り支援も可能であるが、継続した医療行為が必要であれば、医療機関への対応となる事を伝え理解を得ている。また、入居時に終末期支援への考えを書面で聞き取り、重度化した場合あらためて意向や入院となった場合の希望する医療機関を確認している。現在、特養施設へ申し込みされている方もおられ、職員は家族に不安など無いよう日頃から相談事に丁寧に応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で行われている研修会に毎年参加しているが、コロナ禍になってから書面での研修となっている。急変時の対応や応急処置の仕方が分からない時は、看護師に指示をもらっている。その経験・過程を職員で共有して実践できるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練(年2回)に加え、昨年度から水害時の避難訓練(年1回)を行っている。令和2年の7月豪雨災害後から実際に何度か避難をしている。梅雨から台風の時期が過ぎるまで、いつでも避難できるよう玄関近くに必要物品を準備している。	今年度は5月に夜間想定訓練と、11月に消防署立ち合いで昼間を想定での訓練を実施した際は、緊張感のある訓練になったようである。また、令和2年の豪雨災害から得た教訓を生かした水害訓練も行われている。備蓄の確保と、台風接近時はニュース速報を聞きながら早めに食の準備をすることとしている。	避難訓練前にはコンセントの埃などを確認しているが、今後は定期的な実施により更に安全管理への意識が深まるとされる。また、消防と一緒に夜間想定訓練を実施したいとしており、実現が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が1人ひとりを理解し言葉かけや対応を行っている。呼称は家族や本人の希望、反応を見ながらその方に合った呼び方にしている。	入居者一人ひとりを理解し、その方らしい暮らしが出来るように支援している。呼称は本人や家族の希望、反応などから検討し、苗字や下の名前で対応している。衣類の選択は本人や必要に応じて職員がサポートしており、家族には衣替えやサイズの変更などがあれば衣類の準備を依頼している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を通じ思いや希望が話しやすい環境作りに努めている。言葉にて意思表示が出来ない利用者の方は家族に相談して意見を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースに合わせ本人の意向を尋ねながら支援している。レクリエーションの内容やお風呂の順番も尋ね個々に対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を得ながら衣服を揃えて頂き、馴染みの理美容院の利用やホーム内にて本人の意向に沿って散髪支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じお手伝いをお願いしているが、コロナ禍になってから難しい状態である。利用者のエプロン着用は配膳と一緒にしている。1日の中で昼夕のメインが重ならないようにしている。	開設当初から献立は冷蔵庫の食材を見て決定し、職員が調理している。季節感や入居者の好みを取り入れた日々の食事は、入居者の楽しみとなっている。また、職員も同じものを食べる事で、思いを共有でき活力にもなっている。おやつも果物や手作り品を取り入れ、飲み物はお茶、コーヒーもブラックや、ミルク、さとうを好みの量で提供している。毎年秋には干し柿づくりに入居者が精を出され、紐の結び方や、取り入れ時はやわらかめが食べごろなどアドバイスされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所時に食生活を聞きその方に合った食事形態で提供している。水分量は毎日記録している。月に1度体重測定を行い体重の増減や老人健診での採血の結果をみて不足している栄養素がないか確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを行っている。うがいが理解できない方には口腔拭拭シートを使用し清潔を保っている。義歯は夕食後洗浄剤に浸けて消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し日中は全員トイレにて排泄を行っている。夜間は安全を考慮しポータブルトイレを使用されている方もおられる。	日中はトイレでの排泄を支援しており、リハビリパンツや布パンツにパットを併用しながら過ごされている。夜間のみポータブルトイレを使用される方が4名おられ、日中は洗浄後バケツの日光干しにより清潔に管理している。排泄用品はホームで準備しているが、面会を兼ねて家族が購入し持参される場合は、状況とサイズなどを伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し飲食物に繊維質の多い物を提供したり水分摂取の工夫を行っている。排便チェックを行っており、長年下剤を飲んでおられる方には服薬支援を行っている。下剤を服薬しても排泄がない場合は医師の指示をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日から土曜日まで入浴支援を行っている。本人の状態や意向に沿って支援している。羞恥心や負担感等を全職員が理解し都度声掛けしながら、ゆっくりと入浴できるよう支援している。	月曜から土曜まで、週3回の入浴を支援している。入浴をしたくない時は、自ら着替えのみされる方や、拒否をされる方には、時間をずらしたり職員を交代するなどその時々で工夫している。身体状況からシャワー浴が中心の方には、足浴やかけ湯をしながら支援している。入浴剤の使用も数種類用意し、楽しみな時間となるようにしている。入浴後は水分補給と季節に応じ保湿剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの要望や生活習慣に合わせて、いつでも休息できるように対応している。不眠防止のひとつとして日中は活動や日光浴を促し安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を名前ごとに綴じ全職員がすぐに確認できる状態にしてある。状態に変化がみられたときには医師に報告し指示を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手紙を書いたり趣味の絵を書いて過ごされたり空いた時間を使って過ごせれている方もおられる。季節の行事や誕生日会は全員参加で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	災害後、施設の車の手配が遅れている為、いつでも出かけられる状態でない。ホーム裏の畑に野菜の収穫を手伝ってもらったり、ホーム周りを散歩したり、仏壇にお参りしたいとの希望があれば、世間のコロナ感染状況を考慮し医師の許可を得て家族の協力で自宅への外出支援をしている。	ホーム専用の車両が配置されたことで、受診や外出の機会に繋がる事が期待されている。敷地内の散歩や裏の畑で野菜を育てる事は、外部との接触なく行えることから、可能な限り取り組んでいる。また、家族の協力による美容室の利用や、来月には法事での帰省を予定されている方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1名の利用者が少量の現金を所持されている。他の方は管理が難しい為、施設管理としている。欲しい物がある時は職員が購入支援している。家族の面会時に預り金ノートを提示し収支を確認して頂きサインをもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にていつでも電話を使用できる。オンライン電話も家族に推奨している。手紙の投函支援も行っている。届いた手紙は本人にお渡しし家族にも伝えていく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎日掃除を行い、温度管理と換気にも努めている。玄関先には季節の花を植え、裏の畑には季節の野菜を栽培している。ホーム内の壁には季節に合った装飾品を利用者と制作している。	ホーム内には季節に応じた掲示物などを入居者と一緒に作成し飾っている。訪問当日も「一足早くクリスマスの楽しみを味わってほしい」と、リースをはじめ飾りつけがなされていた。ホーム内は清潔を心掛け洗面台を含め水回りもきれいに保たれている。法人代表者もホームを訪れた際は、安全確認を兼ねて敷地内を歩いている。リビングでの席は身体状況や相性なども考慮して決定する他、自ら席替えを要望される方もおられ、状況を見ながら対応している。家庭的な雰囲気と職員の明るく業務にあたる姿も居心地の良さに繋がっている。	リビングに掲示された自分の作品を見て「まだ剥がさんどって～！」「剥がした後は部屋に飾るけん！」と入居者の一言から自信や楽しみに繋がっていることがうかがえる。今後も入居者と一緒に来訪者にとっても楽しみとなる共用空間作りに努めていかれる事を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所に座って頂いている。ソファの席や食堂の席は気の合う方を隣同士に配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に思い出の品の持込みもお願いしている。写真やぬいぐるみ等を飾り癒しの空間になるよう家族に協力して頂いている。	改修型であり広さの異なる居室はきれいに掃除や整頓がなされ、ボードを使って本人の作品を掲示をしたり、必要な物品(スタンドハンガーに衣類、替えの靴、帽子など)が持ち込まれている。中には物があることで不安になる方もあり、個々に応じて環境を作っている。テレビを持ち込み自宅に居るように見られる方もおられるが、他の入居者とリビングで楽しめる方が多いようである。町の花火大会は眺め良く見れる入居者の部屋に集まり、鑑賞されている。	面会が出来ない家族にとって居室内の状況は気になる点と思われる。家族に代わって行っている整頓の様子を伝えたり、広報誌の中で居室内の一角を紹介することも安心に繋がると思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて安心して歩行できるようにしている。居室の配置も1人ひとりの身体機能や状態に合わせて行っている。		